

4大天然繊維でオーガニックがそろそろ 「東北コットンプロジェクト」にも協力

ブルーデニムの市況が振るわないかな、大正紡績はデニム系でもムラを強調したオーガニック綿使いや、綿・麻混、綿・シルク混など高付加価値系で安定した販売を維持している。野田和之社長は「ファストファッションに対抗するのは、感性商品だけがニッチ商品ゾーンで健闘している」と話す。

同社では、引き続きオーガニック関連のラインアップを拡充する。近々、オーガニック・シルクが入荷する

予定だ。これで同社が扱う原料としては綿、麻、ウール、シルクと4大天然繊維すべてでオーガニック原料を確保したことになる。「綿・ウール混、綿・シルク混などでウォームビズに適したデニム系や、綿・カシミア混など高級デニム系でファストファッションとの差別化を図る」(野田社長) 考え。また、茶綿のイン



「東北コットンプロジェクト」の綿花畑を見る大正紡績・近藤健一取締役

ディゴ染めで、通常綿とはことなる色落ち感を演出するなど独特の色合いの新商品も提案する。実際の製織や糸染めを行う産地企業、そしてそのデニムを使うアパレル・流通と強固なチームを構築している点も同社の強みだ。

東日本大震災で津波被災した東北地方の農家を支援する「東北コットンプロジェクト」にも積極的に参加する。農地除塩のために栽培される綿花は、大正紡績が紡績を担当する計画だ。東北コットンを使った用途としてタオル、靴下とともにデニムも予定されており、野田社長は「(試験栽培である)今年度の収穫は1トに満たないかもしれないが、何本かのジーンズを市場に提供できるようにしたい」と話す。